

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 大紀町	対談項目1 産業振興の推進について	新規就農者の定着	<p>農・林・水・商業も含めて打つ手なしと、日本中の田舎が困っているように、我々も弱り切っております。特に人口減、少子高齢化の中で、働く場所がない。まち・ひと・しごとと言われているように、政府が力をどんどん入れてくれるだろうと期待をしているものの、思うに任せずというところでは、</p> <p>特に後継者不足、それと国が進める輸出などと課題がありますが、できる限りのことをしようと、8年間で獣害防護柵で62km、農道で23kmくらいはほとんど整備が完了しました。を進めてきました。林道もかなり進んでおります。これもひとえに、町議会の皆様、町民の皆様のご協力があったからこそできたことです。その一つ一つに国や県の補助をいただいで、できたことであります。</p>	<p>先ほど町長から、担い手が不足しているという話がありましたが、例えば青年世代の方が新たに農業をスタートしたときに、給付金がもらえる青年就農給付金という制度があります。去年から大紀町でこの栽培する方1名に活用してもらっています。</p> <p>また、新規就農者フォローアップ短期研修も実施していますが、「水田作管理」と「有機農業」を大紀町から1名の方に受講してもらっています。さらに、作物を作って終わりではなく、加工・販売してより利益を得ていこうという、6次産業化に取り組める人材育成研修も大紀町から受講してもらっています。</p> <p>担い手不足に対しては、新しく農業を始めた方がきちんと一定の収入を得ているということが、伝わっていくことが、次に農業にチャレンジしようという方が出てくることにつながっていくと思います。</p>
2 大紀町	対談項目1 産業振興の推進について	農業生産基盤の整備	<p>特に水産業も林業も衰退しております。これも農業と同じように後継者不足が一番大きな現状であろうかと思えます。</p> <p>三重県の場合では、各国から重宝がられているヒノキ・スギなど、良質な木材を量産しています。戦後に植えたものでも70年は経っており、木が旬になっています。そのような話を以前に石破茂地方創生担当大臣(当時)に申し上げたら、「頑張りましょう」と言っていただきました。これも林業に携わる方にとっては、小さな灯火かなと思って期待もしております。地方創生がもう少し成長すれば、政府の方からそういった話も出てくるだろうし、知事からも進言をしていただきたいと思えます。</p>	<p>大紀町では、用排水路や耕作道などの農業生産基盤の整備もしっかり取り組んでいただいています。また、国から基盤整備の支援も多くいただいています。</p> <p>農業の基盤整備は防災に関係することもたくさんあります。先日も二階幹事長に防災のため池が老朽化しているのを、それを整備するための予算の確保とともに、小規模のため池整備では、国の負担が50%、県の負担が35%、地元の負担が15%となっていますが、大きなため池では、国の負担が55%で地元負担が軽くなっています。三重県には小規模のため池が多いので、地元の負担が軽くなるように、国の負担をかさ上げしていただけないかとお願ひしてきたところです。</p>
3 大紀町	対談項目1 産業振興の推進について	獣害対策		<p>私が知事になった当時、農作物等の被害額がサルで全国2位、シカが全国7位、イノシシが全国4位くらいでした。県全体で8億円ほどの被害がありましたが、直近では5億円くらいまで減りました。獣害対策課があるのは、全国でも三重県と高知県だけです。</p> <p>獣害対策には力を入れてきたのですが、なかでも大紀町は獣害対策に積極的に取り組んでもらっています。県内でいち早く侵入防止柵の整備を完了させていただくとともに、今年度は5つの集落において獣害対策のための組織化に向けた取組を県とともに進めていただいています。</p> <p>これまで捕獲は市町の役割でしたが、去年から法改正により特別な場合は県も捕獲することができるようになったため、大紀町と大台町の境のところは両町とともに県も捕獲に取り組んでいます。また、今年度は大紀町内のJR紀勢線周辺において、シカ270頭の捕獲を目標として、大紀町とともに事業を進めています。</p> <p>県全体でサルの被害に困っていますが、大紀町は電気柵を上手く使うことにより、サルの被害は減少しています。これもすべて大紀町が獣害対策に一生懸命取り組んでいただいたおかげです。</p>
4 大紀町	対談項目1 産業振興の推進について	林業振興		<p>大紀森林組合は高性能の林業機械を県の中でも早くから取り入れていただいでおり、地方創生加速化交付金を活用して、丸太検収システムを導入される予定ということで、新しい技術を取り入れ先進的な取組をしていただいでいます。林業のコストを下げ、利益を上げるような取組をしていただいでおり、県としてもA材と言われるひのきの丸太とかがしっかりと売れる取組を頑張っていますので、大紀町とともに連携していきたいと思えます。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
5 大紀町	対談項目1 産業振興の推進について	水産振興		<p>今年度、大紀町漁業活性化プロジェクトを策定していただきました。ブリやタイなどの養殖に力を入れて、将来的には海外にも輸出をしていこうと言っています。</p> <p>今年6月下旬に中国に行きましたが、ブリが大変人気でした。中華料理等を食べる国では、脂ののった白身魚が好まれるようです。</p> <p>また、氷見のブリが有名ですが、大紀町のブリは氷見のブリより時期が遅いため、氷見とは違う時期にブリが出荷できるという強みがあります。</p> <p>ブリの輸出については、県もルートを作ったり、香港で販売したりしているのですが、大紀町のブリもいろいろなところに売り込んでいけるように、県としても努力をしていきたいと思っています。</p> <p>国の事業を活用し、養殖の方達が漁船にエンジンをつけたりする積極的な取組も大紀町ではしていただいていますし、25年度からは錦で伊勢海老の漁場整備も町にも負担していただいていたのですが、今年度完成しました。</p>
6 大紀町	対談項目1 産業振興の推進について	自然体験		<p>大紀町地域活性化協議会が民宿とか自然体験に力を入れていただいています。いろいろな方を呼んで来て、場合によっては定住していただいたり、お客様に定期的に来てもらおう、観光スポットに行くだけではなく、体験してみよう、というものです。</p> <p>文部科学省の関係団体の調査によると、子供のときに海や川でたくさん遊んだり、星をいっぱい見たり、自然体験をたくさんした子供ほど、大人になってから物事を最後までやり遂げたいとか、もっと深く学んでみたい、と答える割合が高いそうです。そういうことをよく知っていて、子供に自然体験を積ませたいと考える都会の親御さんを取り込んでいこう、と大紀町地域活性化協議会の皆様がしていただいていますので、ぜひ皆様にもご協力いただいて、大紀町の素晴らしい自然を感じていただけたらと思います。</p>
7 大紀町	対談項目2 「人の命は何よりも大事 子供は町の宝 お年寄りも町の誇り」 防災・減災対策の推進について	防災・減災対策の推進について	<p>10月25日に鈴木知事が全国知事会の危機管理・防災特別委員長に選任されたようで、おめでとうございます。我々町村会では国に対して力不足ですが、知事の得意分野でもあり、我々も応援しますので、知事会をまとめていただき頑張ってください。</p>	<p>町長が言っていたように、全国知事会の危機管理・防災特別委員長になりました。三重県の災害対応はもちろん、全国の災害対応を行います。直近では、2日前に松本防災担当大臣に鳥取中部地震の支援をしてほしいと要望しました。鳥取は中部の倉吉市を中心に被害が出ていますが、米子市や鳥取市まで、合わせて1万3千泊の宿泊キャンセルが発生しています。鳥取はこれからが蟹のシーズンで観光のかき入れどきなのに、観光客が行っていないので、応援してもらえよう大臣にお願いしました。</p> <p>全国の災害対応を行うのに、自分の足元の対策、三重県の防災対策ができていなければ、全国知事会での発言にも説得力がなくなるので、これから大紀町の皆様とも力を合わせながら、より一層防災対策に取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>大紀町では町長も熊本地震発生直後に行っていたので、5月、6月と職員の方も派遣していただきました。そのように相互に応援しあうことは大事ですし、我々県としても助けられています。我々だけでできないところを町同士で仲間で支えあうということを、町長がリーダーシップをとって行っていると思いますので、これからもご指導いただければと思います。</p>
8 大紀町	対談項目2 「人の命は何よりも大事 子供は町の宝 お年寄りも町の誇り」 防災・減災対策の推進について	錦漁港の整備について	<p>(知事発言後) 錦漁港は3種漁港として県営漁港で知事が管理者です。錦の西防波堤は、国から予算を得て、県により230m整備をいただいております。知事もお忙しいとは思いますが、これからも大紀町についてもよろしくお願いします。</p>	<p>(発言なし)</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
9 大紀町	対談項目3 「人の命は何よりも大事 子供は町の宝 お年寄りは町の誇り」 少子高齢化対策の推進について	<p>福祉関係について、紀勢町当時から「子供は町の宝、お年寄りは町の誇り」ということで、ABCD作戦というものを行ってきました。Aはエンゼル(Angel)のA、Bは小熊、ベアーズ(Bears)のB、Cは失敗しましたが、キュービッド(Cupid)のC、Dはドリーム(Dream)のDです。Cの作戦は5年間頑張ったのですが、1組のペアも誕生しませんでした。予算も年間約100万円ほどかかったため、涙を流して撤退しました。今は商工会等でいろいろなことをしていただいていると聞いておりますので、期待をしています。</p> <p>エンゼル手当(子育て支援手当)は、平成27年度から開始し、第1子・第2子への助成額を10万円、第3子には30万円、第4子には50万円、第5子以降には100万円を支給することとしました。その実績は、第5子以降の誕生は未だにないものの、昨年度は第4子が2人、第3子が2人誕生し、今年度は10月末現在で第4子が2人、第3子は8人誕生しました。</p> <p>100万円や50万円も支給をするなんて、と思われるかもしれませんが、町民の方1人に対して交付税が30万円入ります。第3子に30万円を支給しても、1年で元が取れますので、町財政を圧迫するものではありません。</p> <p>また、エンゼル2として、保育園児及び小中学生の給食費への補助として町で8割負担しています。残りの2割は、自分の子供を育てるという自覚を促す意味で、親に負担してもらっています。エンゼル3は高校生の通学に係る経費を50%補助するとともにまた、下宿に係る経費は年3万円ずつ補助しています。エンゼル4は一人親家庭等放課後児童クラブ利用料の100%を県とともに補助しています。</p> <p>ベアーズでは、子供の医療費について自己負担分の100%補助を行っています。また、ベアーズ2として不妊治療費助成金の支給も行っています。県からも半分くらい補助をいただいております、ありがとうございます。今後も補助を継続していただけるよう、よろしくお願い致します。</p>	<p>大紀町は、県内でも圧倒的に充実した手当があると思います。私は国の少子化対策のメンバーもさせていただいておりますが、第1子が産まれるときは、仕事と子育てを両立できるかどうかが大変な要因で、第2子が産まれるときは、パートナーが育児を手伝ってくれるかどうかが大変で、第3子以降は経済的な理由が大変であるというのが、世界共通のことになっています。</p> <p>特に第3子以降について、先ほど町長がおっしゃっていただいたようなエンゼル手当があると、子育てをしようとする、あるいは子供を産むことを希望しようという意欲を高める政策になっていると思います。ここまでされているところは県内でもなかなか無く、非常に素晴らしいことだと思います。</p> <p>不妊治療については、三重県は男性不妊治療の助成を全国で一番最初に始めまして、今は国の制度にもなりました。不妊の原因の48%は男性にあります。ところが、不妊治療に行く人は、三重県でもそうですし、全国的にもそうですが、女性ばかりです。医学的知識をきちんと知ってもらうことが大事なので、子供のときからライフプラン教育というものを三重県でもしています。また、不妊治療で保険適用にならないところは、三重県ではすべて助成が出るようになっていきます。これは全国的にも珍しいです。</p> <p>このような形で、希望する人たちの願いをかなえていきたいと取組を進めているところです。</p>
10 大紀町	対談項目3 「人の命は何よりも大事 子供は町の宝 お年寄りは町の誇り」 少子高齢化対策の推進について	<p>Dは「お年寄りは町の誇り」ということで、Dream(夢)をみながら、元気に年を重ねていただくために、寝たきりまたは認知症老人等の介護者への助成を行っています。</p> <p>月に3万円ずつ在宅の中度の寝たきりまたは、認知症老人等への介護への助成を行っています。</p> <p>高齢者の要支援者への配食とかも実施しており、こういった取組は、女性のサークル活動の皆さんのおかげです。</p> <p>また、こうした福祉向上や教育のための取組は、寄付とかふるさと納税を全部ABCD作戦に充当して、そこに一般会計から20%ぐらい入れて実施しています。</p>	<p>高齢化対策については、来年4月1日から「介護予防・日常生活支援総合事業」を大紀町でも始めていただく予定です。また、県で行っている生活支援コーディネーターの養成研修も、昨年度から大紀町も受講していただいて、体制整備を進めていただいているところです。</p> <p>三重県ではさらにこれから認知症の対応をしっかり行っていこうと思います。現在三重県で認知症に発症している方は約7万人います。2025年には10万人になると言われています。さらに、単身で住む高齢者世帯が増えており、その7割が女性で、認知症に発症している方も多いです。</p> <p>認知症初期集中支援チームといって、医師や看護師、福祉関係者などさまざまな職種の方が、認知症の初期に集中的に支援していただくというチームを各市町で設置しなければならないことになっていますが、三重県はこの設置率が全国1位です。若年性認知症のコーディネーターも三重県は全国で2番目に設置しており、認知症の取組は結構進んでいます。この10月に認知症サミットも三重県で開催されましたが、これからも認知症の取組をしっかり行っていきたいと思います。</p> <p>認知症は早期発見、早期対応が大事です。また、大変な思いをされている家族の皆様への支援も大事ですので、そういう地域づくりを頑張っていこうと思います。</p>